Express5800/MW300e,MW500e (N8100-1343,1344) 再ｲﾝｽﾄｰﾙ手順書

本書は、Express5800/MW300e,MW500e(N8100-1343,N8100-1344)の運用／管理者を対象にした、フェイルオーバークラスタ構成での再インストールに関する手順書です。
（Web管理ツールの使用方法などについては、ﾏﾆｭｱﾙ等を参照して下さい）

2008/9/19　第2版

NEC

目次

環境復元作業の流れ（1/2）

環境保存（バックアップ）

↓

システムの再インストール

↓

初期導入設定

↓

環境復元
（アップデートパッケージ適用）

↓

環境復元作業の流れ（2/2）へ

環境復元作業の流れ(2/2)

環境復元作業の流れ（1/2）より

↓

CLUSTERPRO X インストール

↓

フェイルオーバクラスタ設定
（稼動系／待機系サーバを再インストールした場合）

↓

環境復元
（バックアップファイルのリストア）

↓

マシン再起動

注意

特に記述がない場合は、各手順は再インストールを行ったそれぞれのマシンで行って下さい。

バックアップ

次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。
バックアップの形態は、下記４パターンとなります。

１．Windowsマシンへの定期バックアップ　・・・・・　6ページ参照
２．Windowsマシンへの即時バックアップ　・・・・・　8ページ参照
３．テープデバイスへの定期バックアップ　・・・・・　10ページ参照
４．テープデバイスへの即時バックアップ　・・・・・　12ページ参照

バックアップについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

Windowsマシンへの定期バックアップ手順 (1/2)

1．Windows マシンの共有フォルダの作成

例：ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2．Management Consoleによる設定 (1/2)

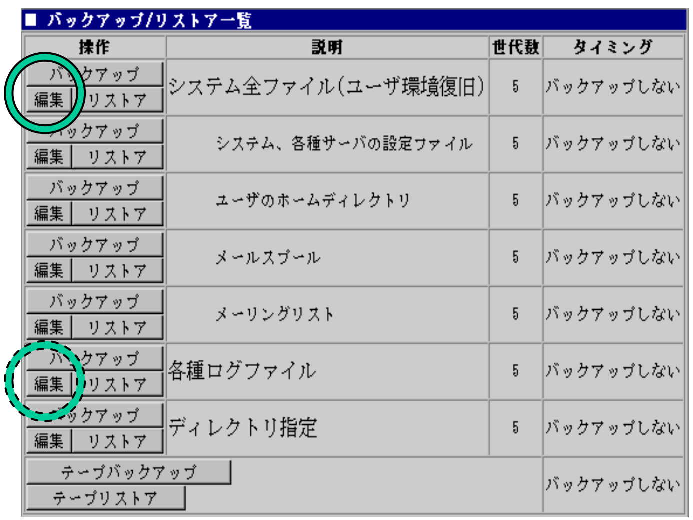
Management Console**で以下の順にクリックして下さい。**



①
システム

②
バックアップ／リストア

③
編集



■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

Windowsマシンへの定期バックアップ手順 (2/2)

2．Management Consoleによる設定 (2/2)

以下の内容を入力して下さい。

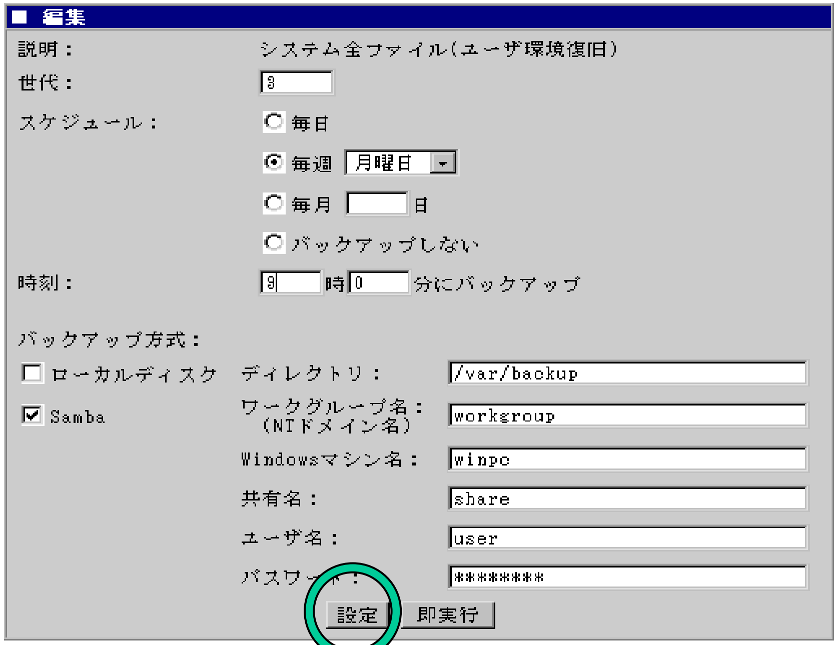
■世代･スケジュールの設定

例：毎週月曜日の朝9:00 **にバックアップをとる。バックアップファイルは**3 **世代分残す。**

■Windowsマシンの設定

「Samba」**をチェックし、**Windows**マシンに接続するための設定を行う。**

例：ワークグループ名「workgroup」、**マシン名**「winpc」、**共有名**「share」、**ユーザ名**「user」、**パスワード**「********」

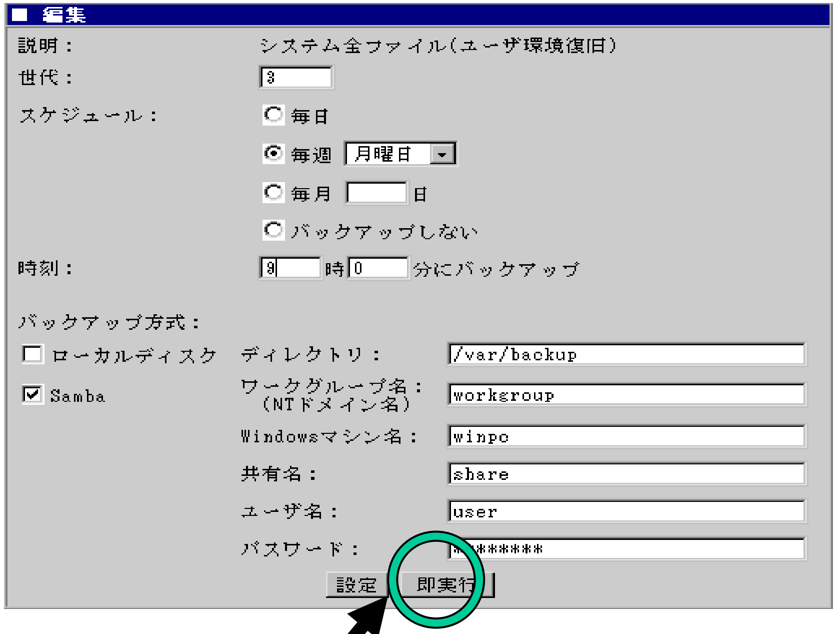


最後に[設定]ボタンをクリック

Windowsマシンへの即時バックアップ手順 (1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Console**の設定中以下の画面で「世代･スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。**

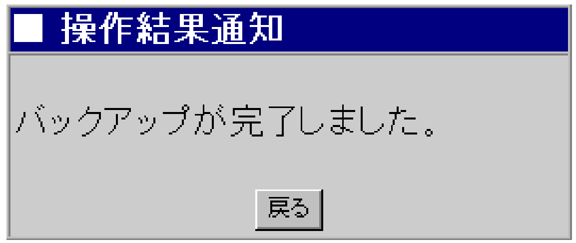
世代･スケジュールを設定しない



最後に「即実行」ボタンをクリック

Windowsマシンへの即時バックアップ手順 (2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



注意

「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

テープデバイスへの定期バックアップ手順 (1/2)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Console**から以下の操作を行って下さい。**





■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

①
システム

②
バックアップ／リストア

③
テープバックアップ

テープデバイスへの定期バックアップ手順 (2/2)

以下の内容を入力して下さい。

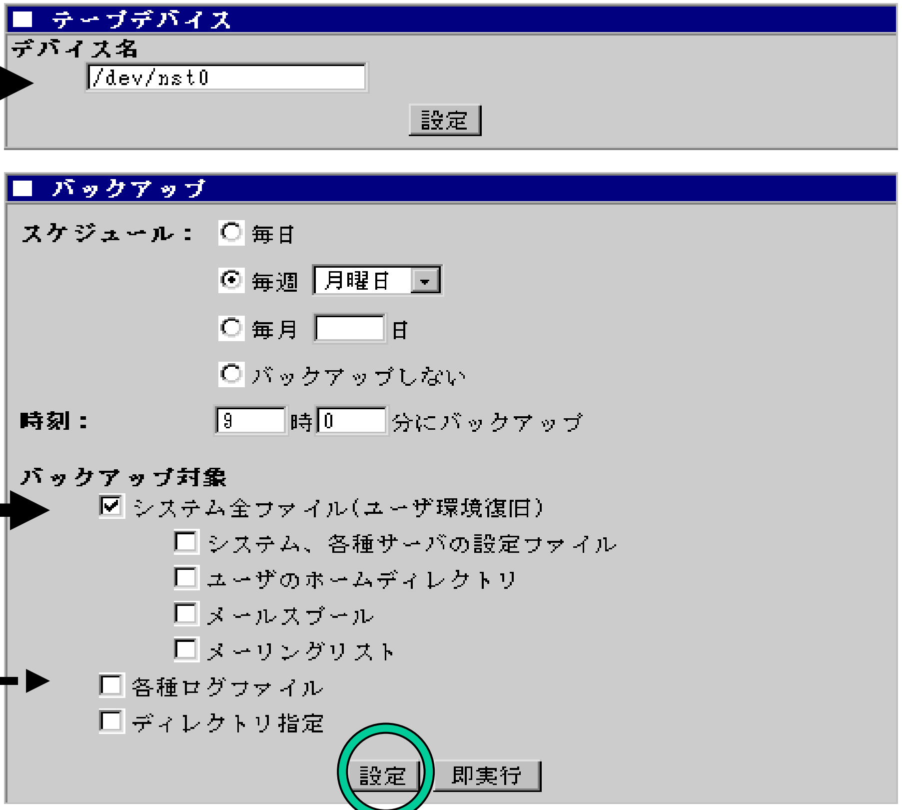
テープデバイス名を指定する

■世代・スケジュールの設定

例：毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

ここをチェックする

必要であればチェックする

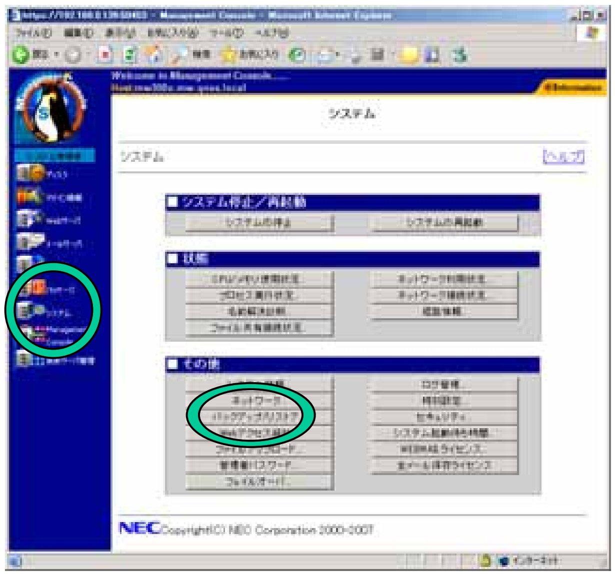


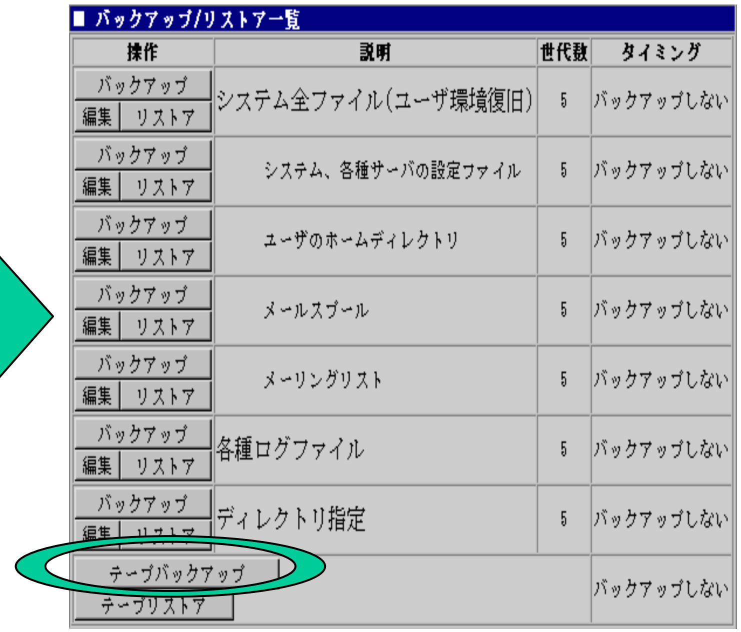
最後に「設定」ボタンをクリック

テープデバイスへの即時バックアップ手順 (1/3)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Console**から以下の操作を行って下さい。**

① システム




■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

② バックアップ／リストア

③ テープバックアップ

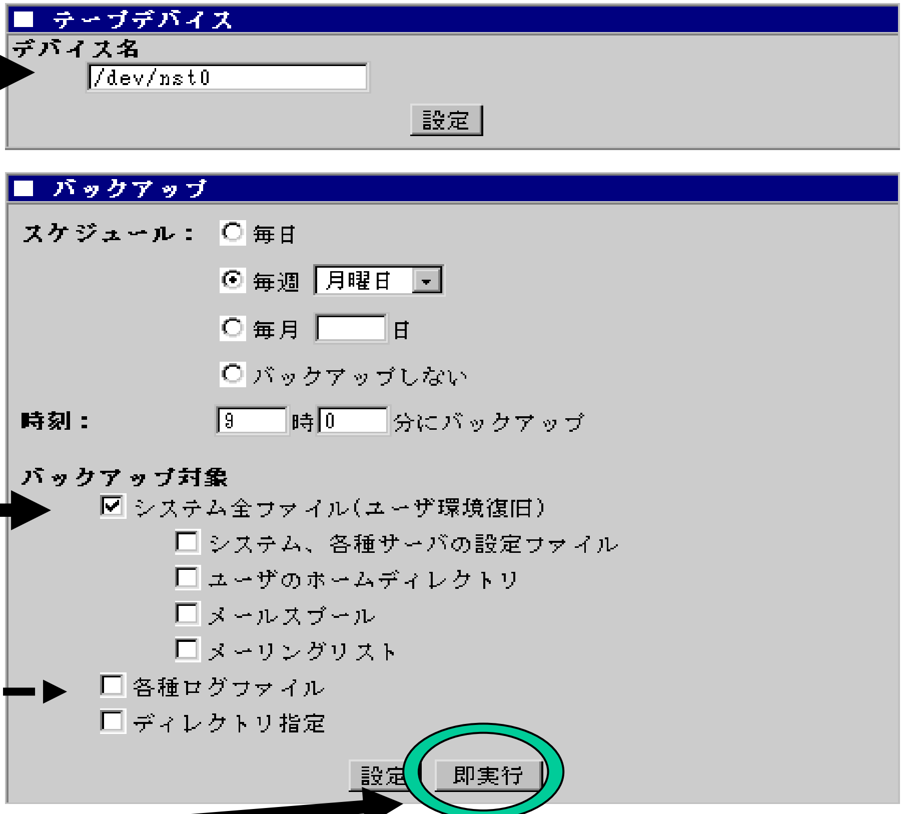
テープデバイスへの即時バックアップ手順 (2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

ここのみチェックすればよい

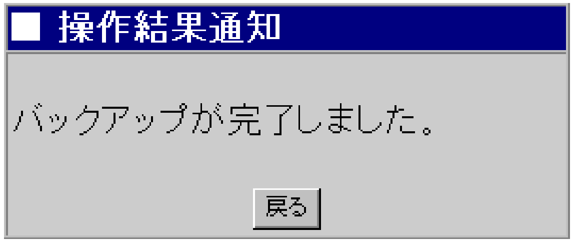
必要であればチェックする



「即実行」ボタンをクリック

テープデバイスへの即時バックアップ手順（3/3）

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



クラスタ構成情報のバックアップ (1/2)

稼働系サーバ上で、以下の１－３の操作を行って下さい。

1．Windowsマシンでフォーマット済みのFD媒体をFDドライブへ挿入します。

2．telnet コマンドで admin ユーザでログインし、次のコマンドを実行します。太字斜体の文字は画面上に表示される、入力を行わない文字です。

$ su -

Password:[**管理者パスワードを入力します**]

clpcfctrl --pull -w -m /media/floppy

コマンド実行後、下記メッセージが表示されれば正常に終了しています。

success.(code:0)

クラスタ構成情報のバックアップ (2/2)

3．手順1で挿入したFD媒体をFDドライブから取り出します。

注意

バックアップしたクラスタ構成情報は、稼動系／待機系サーバを再インストールする場合に必要となります。クラスタ構成情報が格納されたFD媒体を、CLUSTERPRO X インストール後のクラスタ生成時に使用してください。

バックアップの補足事項 (1/2)

1．「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル (ユーザ環境復旧) 」に含まれていませんので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。

2．「システム全ファイル (ユーザ環境復旧) 」のバックアップは、
- ・システム、各種サーバの設定ファイル
- ・ユーザのホームディレクトリ
- ・メールスプール
- ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。
両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

バックアップの補足事項 (2/2)

３．ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。

４．バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前、もしくは、バックアップ直後に、アップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。

システムの再インストール作業の流れ

ハードディスクの初期化

↓

保守用パーティションの作成

↓

システムの再インストール

ハードディスクの初期化

ユーザーズガイド「ハードディスクの初期化」を参照して行って下さい。

「EXPRESSBUILDER(SE)」のFDISK機能を使って内蔵しているハードディスクのパーティションの初期化を行って下さい。

ハードディスクを増設している場合は増設したディスクについてもパーティションの初期化を行って下さい。

保守用パーティションの作成

ユーザーズガイド「保守用パーティションの作成」
を参照して行って下さい。

システムの再インストール

ユーザーズガイド「システムの再インストール」
を参照して行って下さい。

1．「インストール/初期導入設定用ディスク」を3.5 インチフロッピーディスクドライブに、「バックアップCD- ROM 」をDVD- ROM ドライブにそれぞれ挿入し、POWER スイッチを押して電源をON にします。

2．約30 分程度でインストールが完了します。インストールが完了したら、CD- ROM が自動的に排出されます。CD- ROM とフロッピーディスクの両方をドライブから取り出して下さい。POWER スイッチを軽く(4秒未満)押して電源をOFFにして下さい。

初期導入設定

ユーザーズガイド「インストール/初期導入設定用ディスクの作成」
を参照して行って下さい。

1. Windowsマシンに「インストール/初期導入設定用ディスク」を挿入し、ディスク内の「StartupConf.exe」を実行し、バックアップした環境と同じ設定を行います。

2. 「インストール/初期導入設定用ディスク」を本装置に挿入し、POWER スイッチを押して電源をON にします。

3. 数分で初期導入が完了し、Management Consoleにアクセスできるようになります。

アップデートパッケージ適用

**バックアップ実行時のアップデート適用状態を
復元します。**

「Express5800/MW300e,MW500e **パッチ適用手順書**」
を参照して行って下さい。

CLUSTERPRO X インストール

Express5800/MWシリーズ　クラスタ構築手順書「CLUSTERPRO X のインストール」を参照して行って下さい。

フェイルオーバクラスタ設定作業の流れ (1/2)

フェイルオーバークラスタの生成
(待機系サーバでは不要)

↓

CPUライセンス登録
(待機系サーバでは不要)

↓

ノードライセンス登録

↓

稼動系、待機系サーバの再起動

↓

フェイルオーバクラスタ設定作業の流れ (2/2) へ

フェイルオーバクラスタ設定作業の流れ(2/2)

フェイルオーバクラスタ設定作業の流れ (1/2) より

↓

CLUSTERPRO Web**マネージャへの接続**

↓

ManagementConsole**でのフェイルオーバクラスタ構成の設定**

フェイルオーバクラスタ設定

Express5800/MWシリーズ　クラスタ構築手順書「クラスタの生成」、「ライセンスの登録」、「サーバの再起動 」、「Webマネージャへの接続 」、「 Express5800/MW300eの二重化設定」を参照して行って下さい。

フェイルオーバクラスタ設定の補足事項

1. 初期段階に切り替えミラーディスクの構築を行う場合、各サーバの名前解決（正引き）が行われていないと構築に失敗します。また、切り替えミラーディスクの構築がDNSの起動より先に行われますので、自分自身をプライマリネームサーバに設定している場合は、注意して下さい。（回避策として、一時的にHOSTSファイルに定義すれば問題ありませんが、あまりお勧めしません。DNSサーバを別ホストで運用されることをお勧めします。）

リストア作業の流れ

設定ファイルの退避

↓

リストア

↓

退避した設定ファイルの復元

↓

マシン再起動

「システム全ファイル(ユーザ環境復元)」、もしくは、「システム、各種サーバの設定ファイル」のリストアを実施する場合、一部設定ファイルの退避が必要となります。

設定ファイルの退避

「システム全ファイル(ユーザ環境復元)」、もしくは、「システム、各種サーバの設定ファイル」のリストアを実施する場合、一部設定ファイルの退避が必要となります。以下の手順に従って設定ファイルの退避を行って下さい。

telnet コマンドで admin ユーザでログインし、次のコマンドを実行します。太字斜体の文字は画面上に表示される、入力を行わない文字です。

$ su -

Password:[管理者パスワードを入力します]

cp /etc/fstab /tmp/fstab

cp /etc/grub.conf /tmp/grub.conf

リストア

次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でリストアを行って下さい。
リストアの形態は、下記2パターンとなります。

1．Windowsマシンからのリストア　　・・・・・ 33ページ参照
2．テープデバイスからのリストア　　・・・・・ 37ページ参照

リストアについては、ユーザーズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

なお、リストア後、通常、マシンの再起動を行いますが、「システム全ファイル(ユーザ環境復元)」、もしくは、「システム、各種サーバの設定ファイル」のリストアを実施した場合、マシンの再起動を行う前に、退避した設定ファイルの復元を行って下さい。

Windowsマシンからのリストア手順 (1/4)

1. バックアップファイルのあるWindows マシンのフォルダを共有しておく。

例：「user」というユーザーを持つ、ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上の「share」という共有フォルダにバックアップファイルが存在する。

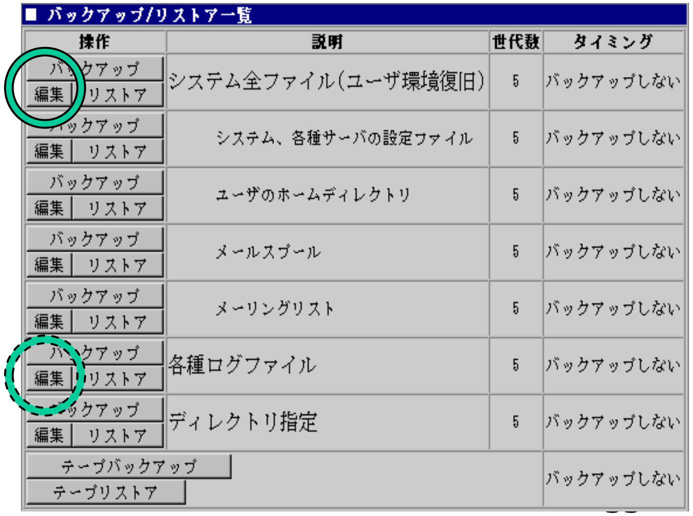
2. Management Consoleによるリストア (1/4)



①システム

②バックアップ／リストア

③編集



■ バックアップ/リストア一覧

操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

Windowsマシンからのリストア手順 (2/4)

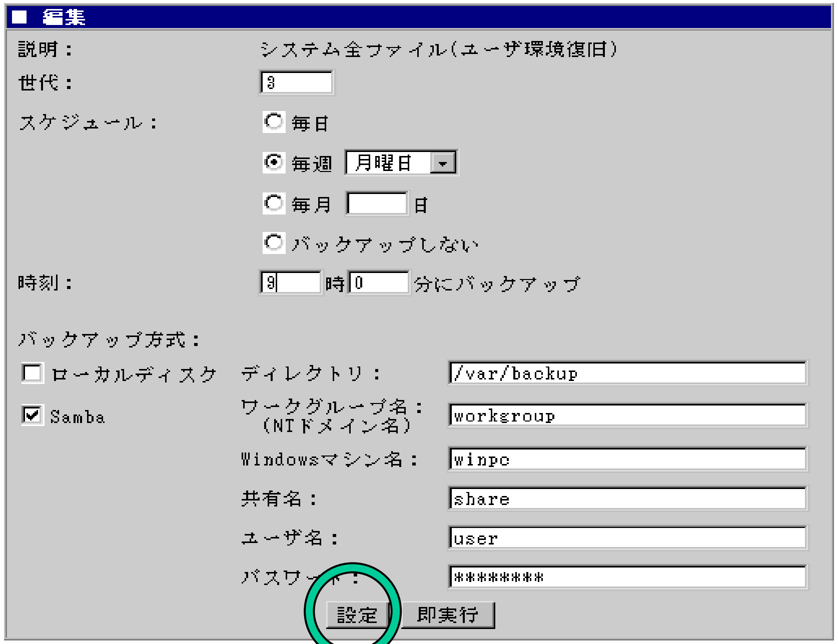
2. Management Consoleによるリストア (2/4)

以下の内容を入力して下さい。

■Windowsマシンの設定

「Samba」**をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。**

例：ワークグループ名「workgroup」、**マシン名**「winpc」、**共有名**「share」、**ユーザ名**「user」、**パスワード**「********」



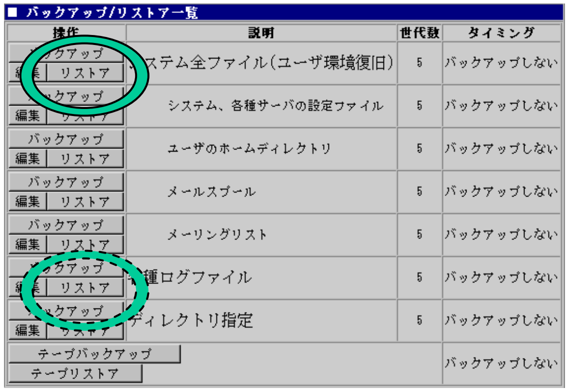
「設定」ボタンをクリック

Windowsマシンからのリストア手順 (3/4)

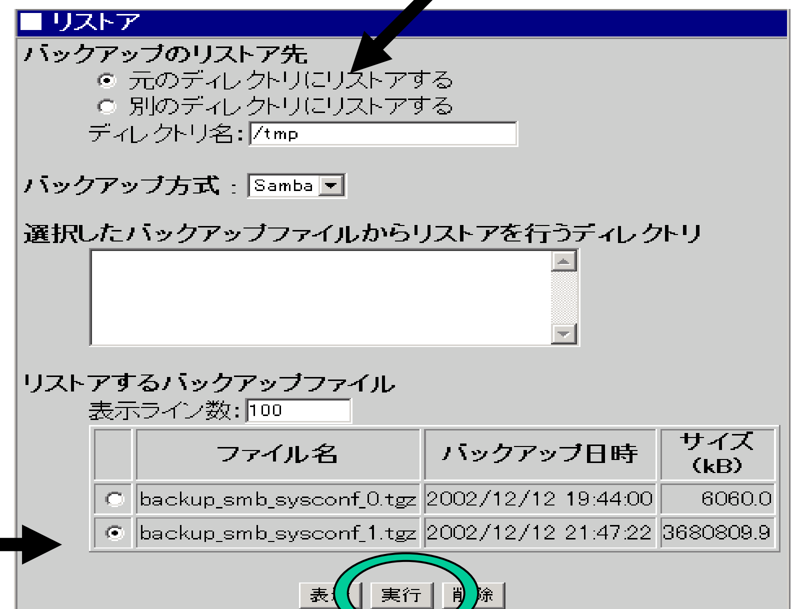
2. Management Consoleによるリストア (3/4)

リストアを実行します。

リストア



「元のディレクトリにリストアする」をチェック



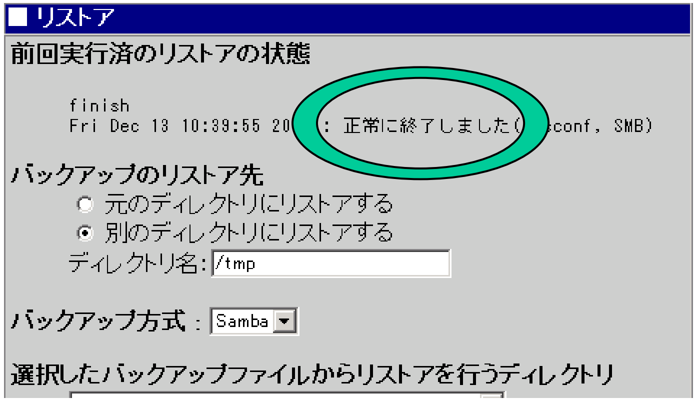
最新のバックアップファイルを選択する

「実行」ボタンをクリック

Windowsマシンからのリストア手順 (4/4)

2. Management Consoleによるリストア (4/4)

リストアが正しく実行された場合はリストア画面が次のようになります。



注意

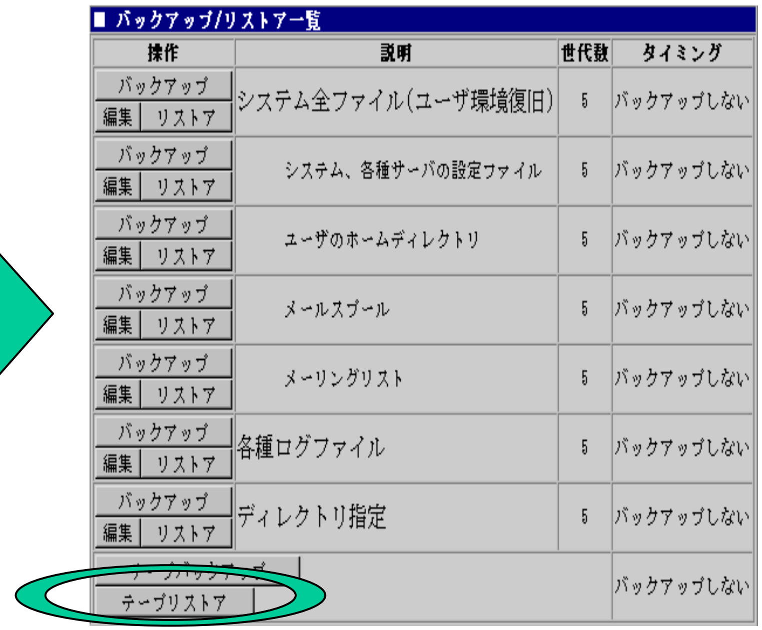
「各種ログファイル」のリストアは、「システム全ファイル (ユーザ環境復旧) 」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でリストアを行う必要があります。

テープデバイスからのリストア手順 (1/3)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。

①
システム





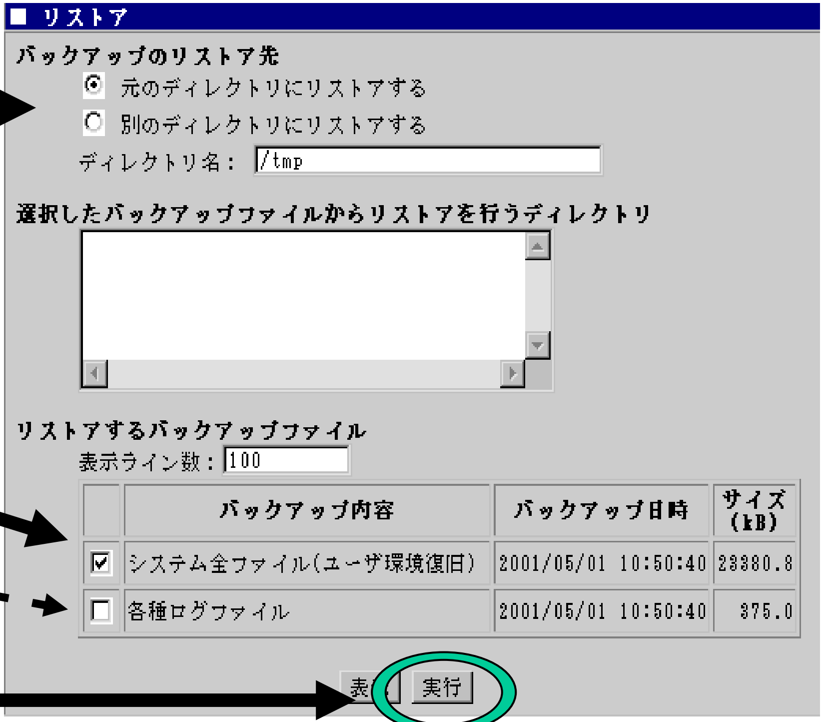
②
バックアップ／リストア

③
テープリストア

テープデバイスからのリストア手順 (2/3)

リストアを実行します。

「元のディレクトリにリストアする」をチェックする



ここのみチェックすればよい

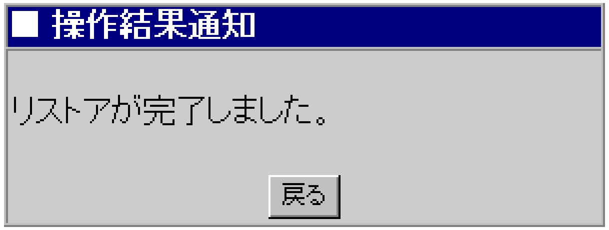
必要であればチェックする

「実行」ボタンをクリック

注意：テープデバイス名が既定値 (/dev/nst0) 以外の場合は、テープバックアップ画面で該当するデバイス名を設定して下さい。

テープデバイスからのリストア手順 (3/3)

リストアが正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



リストアの補足事項

1. ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
   したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。

2. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル（ユーザ環境復旧）」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」をリストアする必要があります。

3. バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップ時点のアップデートモジュール適用状況を控えたメモ用紙等を参照し、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態にして下さい。

退避した設定ファイルの復元

「システム全ファイル(ユーザ環境復元)」、もしくは、「システム、各種サーバの設定ファイル」のリストアを実施した後、マシン再起動の前に、退避した設定ファイルを復元する必要があります。以下の手順に従って設定ファイルの復元を行って下さい。

telnet コマンドで admin ユーザでログインし、次のコマンドを実行します。太字斜体の文字は画面上に表示される、入力を行わない文字です。

$ su -

Password:[管理者パスワードを入力します]

\# cp /tmp/fstab /etc/fstab

\# cp /tmp/grub.conf /etc/grub.conf

マシン再起動

1. CLUSTERPRO Webマネージャにて、すべてのアイコンが緑色になっていることを確認して下さい。
2. CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行います。

備考：バックアップファイル名一覧

バックアップファイル名は、バックアップ対象ごとに自動生成されます。

バックアップ対象	バックアップファイル名（＊：世代番号（0～）） 上段：ローカルディスク 下段：Samba
システム全ファイル（ユーザ環境復旧）	backup_sysconf_*.tgz
	backup_smb_sysconf_*.tgz
システム、各種サーバの設定ファイル	backup_conf_*.tgz
	backup_smb_conf_*.tgz
ユーザのホームディレクトリ	backup_home_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
	backup_smb_home_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
メールスプール	backup_mail_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
	backup_smb_mail_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
メーリングリスト	backup_fml_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
	backup_smb_fml_ﾄﾞﾒｲﾝ名_*.tgz
各種ログファイル	backup_log_*.tgz
	backup_smb_log_*.tgz
ディレクトリ指定	backup_dirinfo_*.tgz
	backup_smb_dirinfo_*.tgz

変更履歴

版数	更新内容	更新ページ
第1版	初版	
第2版	目次を追加	2
	バックアップを追加	5
	リストア作業の流れを追加	30
	設定ファイルの退避手順を追加	31
	リストアを追加	32
	リストアの補足事項を追加	40
	退避した設定ファイルの復元手順を追加	41
	変更履歴を追加	44